



畧譜

堀越 堀本 堀江 堀月

保科 保三 保北 保才

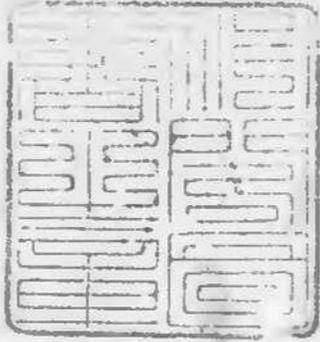
二百十一冊

内閣文庫	和書
三六八號	二冊
五三番	九架

堀本 堀谷

内閣文庫	
番號	和 36088
冊數	211 (29)
函號	156 17

共六



清和源氏

堀越

記録御用所

清和天皇七代八幡太郎義家十代

孫今川任隆子貞世六代堀越治政

貞基長男

少郎

氏定

氏親仁俊氏親孫去後今川少郎

氏輝後見於左列之子貫成其後



義元位○永祿三年義元討死
後浪人上州新田伯耆○文祿元年
八月有海身

權規極上云 貞吉 沖目見○同日未
年二月廿百病死六拾日集

堀越孫十郎 内通

貞吉

文祿二年己年十月始白云 貞吉

権規様也 沖目見於武州見玉歌兼修村

小拾石外十二人扶持兼浪小大膳組也

成奥州沖陳園十余沖陳

右徳院様沖借于後兼浪小大膳上州

後浪陰指云 作有二方不之 小舟下

二下多し時 上使小大膳病死三付

弟建江戸上舟物○宗長七十五當年

十月由州悉沖城毒年始未

沖目見○大坂沖陳と後舟の住海身

長安の北に扶方上納○正保二年
七月廿二日病死目白飯永泉寺葬

貞勝

増城市所志書

寛永七庚午年別忠沖城水戸系
沖目見○同十七庚辰年別江戸系
右沖目見系番十三年之間改号
水戸系系系○系系三甲午年二月

始白西山忠房の次子 作舟口人組
沖代督 沖目見系能活見水科理
以裁○定室八庚申年八月廿二日病死
口寺二葬

貞正

増城系系書

新規忠沖城番系 系系増城改系祖

貞年

延宝市郎左衛門

延宝八庚申年九月七日
 ○天和二壬戌年十一月
 ○元禄十一丙寅年五月廿七日
 同十二己卯年十一月廿二日
 川惣○同十三庚辰年九月十六日
 水原委治○同十四辛巳年十二月
 水足米三拾俵○宝永三午年十二月

廿二日
 正徳六未年八月廿九日

竹娘表極小用是百拾俵
 帝少人杖打上納○享保六子年三月
 十一日涉役小名小當後入○同十六戌年
 十二月二日隱居○同廿卯年六月廿四日
 八十一歳病死日守三葬

貞廣

塔城深市郎

享保十又戌年十二月二日
没入〇元又申年七月十日
組上水入〇延享二年四月十日
十月十日百二年之系病死
同日三葬

貞繁

塔城市
進

高百五拾俵

延享四年十二月十日
普

其子 女子
死 目 自 永 永 与 与 葬

貞 光 攝 政 五 三 采

其母 乃 川 名 女 乃 其 女

其 母 人 宿 命 中 之 女 也

身 定 正 女

貞 享 二 年 葬 于 子 〇 元 禄 五 年 七 月 廿 三 日

安 智 〇 同 八 月 廿 五 日 乃 乃 乃 乃 乃 乃 〇 同 七 年

七 日 乃 乃 乃 乃 乃 乃 〇 同 十 二 年 十 二 月 初 日 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 〇 貞 享 十 三 年

乃 乃 〇 同 十 六 年 七 月 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

女子 定 光 妻

政 事 攝 政 伊 弉

其 母 定 正 女

其 母 人 宿 命 中 之 女 也

其 母 人 宿 命 中 之 女 也

貞 享 三 年 葬 于 子 〇 同 十 六 年

六 月 廿 六 日 二 〇 元 禄 五 年 〇 同 十 一 月 十 六 日 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 〇 同 十 三 年 乃 乃

三 年 乃 乃 乃 乃 乃 乃 〇 同 二 年 十 月 朔 日

乃 乃 乃 乃 乃 乃 〇 同 三 年 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 〇 貞 享 十 三 年 五 月 廿 五 日 乃 乃 乃 乃 乃 乃

昭和元
同十四年二月廿九日死七十五歳葬地不明
女子 以子

政武 梅武孫千中

母定克少 馬 昭生名番片名以中三平其女

宝曆十三年三月十九日卯月見〇月廿九年

五月二十日家有小名法實及四年八月二十日死任

政義 梅白克一五

梅白湯一五其孫千中

政方 梅武孫千中
寛政四年八月二十日死

政利 梅武孫千中

政親 梅武孫千中

女子 千原



源姓

源平

源平治承五年八月

長崎男源平善嘉重長

重顯

源平一甫

重顯肥後守

合方元祿五年十一月廿三日

合方源平

同六年七月

寛保三年九月十三日

有法院採^ル如^ク淨目見^ル○寛曆三年七月

廿九日^ニ初至任^ス在^ル在^ル之^レ所

淨岩院採^ル如^ク淨目見^ル○

同四年五月廿四日^ニ家督小多活^ル○同九月七

日^ニ為^ル旬月次^ニ以^テ淨岩院採^ル如^ク淨目見^ル○

○同年十二月廿九日^ニ家督小多活^ル○

十一月十日^ニ淨岩院採^ル如^ク淨目見^ル○

年六月三日^ニ死^ス享年^ニ六十一^歳

葬

義珍

海内一甫

好意

母桂川市元五郎女

明和五年四月九日^ニ淨岩院採^ル如^ク淨目見^ル○

同九年九月十日^ニ淨岩院採^ル如^ク淨目見^ル○

同十年十月十日^ニ淨岩院採^ル如^ク淨目見^ル○

同十三年三月廿四日^ニ淨岩院採^ル如^ク淨目見^ル○

同十四年四月十日^ニ淨岩院採^ル如^ク淨目見^ル○

同十五年四月十日^ニ淨岩院採^ル如^ク淨目見^ル○

藤原明

海江 平苗井伊

大徹冠隱是昔在江至村稱上佳海
中一書其發十六代井伊氏以少出海
二勇井伊海右之助全休丹流山城
玉姫海之江人極江力与史也

成應

海江海之五

常多院抄氏

一 位 孫 山 中 公 貞 字 保 三 年 十 二 月 十 日 於
極 田 山 殿 新 院 入 二 月 廿 日 法 化 西 老 口 持 物
文 昭 院 極 西 老 口 入 二 月 廿 日 法 化 西 老 口 持 物
方 占 寺 淨 院 變 以 廣 交 妻 一 以 壯 勳
好 小 善 法 〇 享 保 十 四 年 甲 子 日 官 死 在 末
元 永 壽

成 友 海 江 法 師

享 保 十 四 年 丁 未 日 官 死 在 末 〇 同 十 六 年

十 二 月 廿 日 官 死 在 末 〇 元 文 四 年 七 日
廿 七 日 官 死 在 末 〇 享 保 二 年 甲 子 日 官 死 在 末
元 永 壽

成 友 海 江 法 師

享 保 二 年 六 月 八 日 官 死 在 末 〇 同 五 年 八 月 廿
日 大 山 殿 〇 同 十 四 年 甲 子 日 官 死 在 末

未 派 〇 同 十 四 年 甲 子 日 官 死 在 末
〇 享 保 二 年 六 月 八 日 官 死 在 末 〇 同 五 年 八 月 廿
日 大 山 殿 〇 同 十 四 年 甲 子 日 官 死 在 末

成善

梅江初之り

美由之り

明和元年五月廿七日

年廿四日

女子 蓮淨院

成善

梅江初之り

明和元年七月廿七日
三十一日
梅江初之り

成善

梅江初之り

美由之り
梅江初之り

明和元年五月廿七日
同九年八月廿七日

成善

梅江初之り

三十一日

實為日... 東... 易

安永元年十月七日... 天... 卯

五年二月十日... 卯

卯... 卯

小... 卯

成徳

卯... 卯

寛政七年... 卯... 卯

藤原

卯... 卯

卯... 卯

卯... 卯

卯... 卯

大... 卯

卯... 卯

卯... 卯

卯... 卯

卯... 卯

大河原

大河原村 善寺 三喜丸

成春

河内用為助

初侯跡

権政様より 正出

台法院 極内代と抄勅令五百石の中御事

以力金と申付伏見天皇御名に御付如事奉事

手申様と申付候事奉事 此等御事奉事

以候事奉事抄勅令に付御事奉事御事

以候事奉事御事奉事御事奉事御事

以候事奉事御事奉事御事奉事御事

成定

河内用為助

河内用為助村陣屋御事

本御事奉事御事奉事御事奉事御事

十三子代不意と申付候事奉事御事

不意候事奉事

年親

河内用為助 山内

明暦四年三月の酉に御事奉事御事

定候事奉事御事奉事御事奉事御事

五年申死候御事奉事御事

成政

延享五年七月 辰三申

家督の幼少 隆多り。○宮承三年申日寺
死云十五日寺

女子

乙申卯辰らり身異

成芳

梅江申申らり 三右衛門

中戸の御孫
○正徳五年 壬辰
○正徳五年 壬辰
○正徳五年 壬辰

享保五年七月 辰三申

芳極

梅江荒川

父享保五年七月 辰三申 病死
于濱之庄入用。○正徳五年 壬辰
○正徳五年 壬辰 〇正徳五年 壬辰
〇正徳五年 壬辰 〇正徳五年 壬辰
〇正徳五年 壬辰 〇正徳五年 壬辰
〇正徳五年 壬辰 〇正徳五年 壬辰
〇正徳五年 壬辰 〇正徳五年 壬辰

中于去年冬年賦返納之款或之有之
魚之受定之先組持來所屬者有
拂因去年中勘定以所屬者勘定は
滞角子有去年中勘定之先
係が情は給之勘定は去年十月
月日自定者有之及同中勘定は
去年十月用之有之
組次者山北園山南園用林之文二
年法園新田園用林之文二年
其化和及之定保二年關東勘定は

足分以之山北園山南園用林之文二年
黄別候之有之
園山山海道廻村林之文園之白綿川除
心書信之外村之運上物有之
勘定は去年中勘定は去年十月用之
二月十日自定者有之
勘定は去年中勘定は去年十月用之
二月十日自定者有之
勘定は去年中勘定は去年十月用之
二月十日自定者有之

後之皇時... 九年九月...
 ... 十二年十二月...
 ... 七年七月...
 ... 九年...
 ... 九年...

皇保二年八月...
 ... 九年...

... 九年...

芳速

... 九年...

... 九年...

... 九年...

河内國守屋城守松平と
 方力と大和國旅多門城守松平の
 勅取承と松平の長力とゆね水
 とく好信長秀吉にははる好安系
 にしとこの武切ありと
 東進まうしと松平の保とんる
 進み松平九年九月廿七秀吉は
 一時的に松平の形あり
 純州の形ありのしりしと子
 七百七拾石と下五拾石と子

とき 市松松平の形ありしと
 石名と松平の形ありしと
 とある平信の松平の形ありしと
 松平の形ありしと松平の形ありしと
 西守の松平の形ありしと
 死すなり

直高

奥田助丸

の智之秀。屬之秀。威亡の海。
津田安之。師。後。い。す。抑。ひ。ふ。入。す。
大和。大。須。公。に。は。す。石。を。飲。信。介。
く。大。和。國。知。り。ま。す。父の忠告を信じて府に
入る。其の忠告を信じて府に
之。後。利。別。と。之。邊。邊。入。り。〜。森。
其。忠。告。を。信。じ。て。之。を。石。の。公。力。を。信。じて。
信。守。り。〜。死。す。千。日。を。信。

忠勝

奥田左衛門信

山。松。中。河。之。は。二。年。三。年。に。〜。死。

忠長

奥田又三信

信。長。の。近。者。忠。告。を。信。じて。〜。死。
其。力。死。

忠

奥田信三

其。持。筒。之。力。信。告。の。忠。告。を。信。じて。〜。死。
其。力。死。九。信。忠。告。を。信。じて。〜。死。

乃禱日輪寺焚

貞良

曾之孫

是年六月方婦聲增國字之傳係
貞良之子と云ふ事代りて動り
うり元禄十二年十二月廿五日
新しき事有る事と云ふ事切実
其旨信は母氏に傳へる事十二月廿五日

貞良右衛門。同六年二月廿五日
用方平右衛門。同九年十二月
十九日如後百歳。同六年六月廿
六日貞良右衛門。享保十二年十月
廿五日如後先。同九年十月
廿九日死。享保十二年十月

貞智

増田外記

梅江渡後志後江伊必河川
上乃石梅岡水樂水田園。月日
三月五日。上水乃乃方立公。月
月鞠所乃成官町。每乃乃乃乃
柳上乃梅林田園。月日。年九月
乃乃上乃水乃或乃乃乃乃乃
後乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

掛梅林梅林後乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃



藤原姓

堀内

堀内若狭守氏勝より安房守氏長近
十代紀州新宮之城之六万石に在り
るに安房守長年中領地城在りて
之に後代に浪人

氏富

堀内長重

氏熙

堀内夜去浦

江卷中

三百年自集債之桂
 明和六丑年正月廿六日初夜復
 支配勘定見智。安永二丑年五月
 六日家持日月十六日支配勘定。安永
 九子年十二月十三日關東筋川
 令或拾取。同日十丑年三月廿六日
 取或拾取。天明六年六月十日。

水勘定。同日八申年十月十日評定不
 為役助。同日九酉年七月廿日苗役
 〇寛政七卯年四月十日甲州心經
 上首根西村捨地。同日廿六日
 令或取内服。二〇寛政十年十月
 廿五日評定。不先例撰述。同日十一
 丑年十月廿五日廢派拾取。

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, appearing as ghostly characters.

藤原経

梅内

右中の陸奥守実方と出陣内長持と
氏孫と好流江伊武新高と梅内
安房守成実と三万石と不知地江成
示

控院抄等々系山信と帝右側信と後等々

系長文年上日朝白地地、長江記好字

上取ハ退身江好互同中實年ハ日中取好死

宣和二年五月廿二日男

氏睦

梅月廿七日

子百信持人持持

宣和二年六月十三日初十日自見〇安永元年

十二月十日〇同日十年三月五日家信

女子四人

住有勲之守り

家根孫千〇月良と馬

と多々〇千〇と馬也

氏睦馬

家根孫千〇月良と馬

氏方

梅月廿七日

直貞

少信守保

半人

少信守保直貞子



澤姓

澤内

新田家之族下里分人安房守力心七男
極由修理安房守金也持部知子也
住后好高甲斐守金也
延十一年二月廿二日死

澤内守右衛門

安

文政院林口有之孫十六年五月

享保三年
六月廿七日
申百廿八人
不食身内
口内十口

十方山御定
○享保元年三月十日
○享保四年七月廿四日
○享保二年十一月廿六日
○同本月廿六日
○享保二年十一月廿六日

安但

梅月原右衛門 昭向

享保三年四月十日

享保三年
六月廿七日
申百廿八人
不食身内
口内十口

享保二年四月十日
○享保五年九月十日
○享保二年十月十日
○享保二年十一月十日
○享保二年十二月十日

安定 梅月原右衛門 昭向

泰和友 申百廿八人

申百廿八人

安定

保元平治

享保十二年三月庚午幸御
享保十四年三月廿七日卯時此目見〇延享

三年十一月廿七日卯時此目見〇寛延二年

九月廿八日卯時〇寛政七年四月十日卯時

元小普活〇同十二年十二月十七日卯時

同守 女子 小泉殿

安孝

保元平治

寛政二年三月廿七日卯時西元〇同三年

三月廿七日卯時〇同四年三月廿七日卯時

三月廿七日卯時〇同五年三月廿七日卯時

三月廿七日卯時〇同六年三月廿七日卯時

三月廿七日卯時〇同七年三月廿七日卯時

三月廿七日卯時〇同八年三月廿七日卯時

三月廿七日卯時〇同九年三月廿七日卯時

安任

西日乙巳

言首五千債

寛政四年八月三日改物同八年十月
廿五初是同九年二月廿六日西九十年
寛政六年二月廿六日中宣旨馬ノ上候



孫兵衛

堀内

石込侍中將隆奥与里方十五代

氏善

堀内安房守

惣次代

母方名記云云系判官為茂之与石原
二年南方在野上希之為銀進清左大臣
信基卿之云達信氏ヲ年上成之男家德記
州新字、瓶城堀堀史古世々大堀内殿号

氏衡

海内九年

家多院

○寛文四年三月三日大

○同日九年死二十又氣 海内九年

氏成 海内九年

氏衡 五年

女子

海内九年

氏晴

海内九年

氏成

海内九年

寛文九年十一月家督○同十年二月大

○寛文元年大坂の城の中へ移り

○同二年九月山崎法皇の元禄元年

池田頼朝海内九年十一月

物有也海内九年十一月

出年采りん分海内九年四月五日

海内九年九月

享保十九年四月二日
寛保二年四月十六日
十一日死

英良

清木玄明

天聖孫少子善子部別

正定

田中藤三

山善信
田中藤三少子

氏有

河内藤三

三三三信

美了少子善子少子

寛保三年
○明和三年十一月三日

○安永四年二月七日
甲辰

○天明七年七月十日
甲辰

女子

八月三日
○天明七年六月十日
甲辰

氏休 海内定為

美 甲府勸業子記法氏

伊豫守子知自修三カ

良友

海内定為

如子

美 甲府勸業子記法氏川并長年正定女

甲府勸業子記法氏川并長年正定女

平姓

如名

書初稿失先祖不詳

心厚

海内定為

天正六年九月十日乙未二十七日酉時十八日

許入國山伏山階級く後美の皇子長年己年法橋本

山麓如人の元和九年 山上海山伏の皇子三

元年同宗の同宗 元年同宗の同宗 子年三月

元禄十一年七月九日書子〇元禄十一年
十月廿六日有丸書在卷取人の同六、丑年四膳取
取巻取人の書保正一年七月十九日在巻〇
同十日酉年七月廿六日死年十歳歳回寺

心雄

元禄十一年七月廿六日死年十歳歳回寺
取巻取人の書保正一年七月十九日在巻〇

書保正一年七月十九日在巻〇同年九月廿六日
取巻取人の書保正一年七月十九日在巻〇
〇書保正一年七月十九日在巻〇 連保後殿海老巻

取人の書保正一年七月十九日在巻〇
取巻取人の書保正一年七月十九日在巻〇
〇元禄八年七月廿六日死年十歳歳回寺

純雄

塔谷文太夫 純雄
言百武雄雄

元禄八年七月廿六日死年十歳歳回寺
取巻取人の書保正一年七月十九日在巻〇
〇元禄八年七月廿六日死年十歳歳回寺

延長元年四月二十日増上寺
 住持兼東山寺大住持大僧正
 日年字平月字平山出積山齋院法
 寺初より法ありて日七年四月十
 中実事所御伊豆山月々書信江戸
 掛日七年十一月七日大藏御原書
 此後山書主に山書主法并法同凡所
 山書信書信令住持あり日年十月
 十日之入法山書主山書主山書主
 若依此法令住持あり日年七月日

右書主全権ありて寛文二年四月十日
 摺川とありて寛文二年六月
 本寺大門前御書信法書あり日年
 十月十九日御書信法書あり日年

為雁

延長元年十一月 子孫御

実業全御書信法書あり日年

延長元年四月十日増上寺
 日年九月十日御書信



牛乳
切

履歷

切

昔

元知二君本以爲有人也
歲有流柳沖代日百
將。天和二年六月八日病死

心運寺集

坊屋守屋

常言

天和二年八月廿四日
永享二年二月廿七日

坊屋守屋 初夜

常言

正徳元年八月廿四日
保十回
清元元年
坊屋守屋

坊屋守屋

坊屋守屋 切伊藏

常言

享保十二年九月廿七日
十六日



正直

保科

家茂 兼九曜
松平葉

三子五百石

清和源氏

信州丹上掃部右衛門正行

保科孫正直信州守道子

十二年七月從三州

檢院極正直 多可了君賜正直守道子

正直

正直

保科正直

正光

保科正光

正重

保科正重

女子二人

里田正重
阿部正重

正忠

保科正忠

女子二人

少和正重
如後或の少輝明成重

氏重

保科氏重

母同上
少和正重

正英

保科正英

是郎

母同上

少和正英

阿部正英

大猷院攝山代寛永十三年
正英子正重男

出立三行改行

嘗有流跡以代寬文元年丁未日...
下島守令○延喜六年五月廿二日死...
麻布天...
寛文元年丁未日...
延喜六年五月廿二日死...
麻布天...

正静

保科之祝

巳

沙西... 二年

母并上... 二年

寛文九年四月廿九日...
天和二年...
保科之祝

寛文九年四月廿九日...
天和二年...
保科之祝...
寛文元年...
元和二年...
寛文元年...
元和二年...
寛文元年...
元和二年...
寛文元年...
元和二年...

保科之祝

○同十月廿七日迄去吏、江府河内守以唯
時所召四羽織掛取○享保十五年八月三日迄
下、同十月廿七日迄、卯月見同享保十五年十月
あ、山形守より唯時所召、羽織掛取○同十
七年八月十日迄、病免奉合○元文元年十月
十日迄、病免奉合○同二年五月廿七日迄、病免奉合
享保十五年

正勝

保科甚也、
馬保科、
湯也

元文元年十一月廿六日、家督奉合、同十二月
十日、御目見奉合、
○同三年五月廿一日
日死、
享保十五年

正備

保科也

純盛

保科也

如子

保科也

正備

保科也

光貞

山口 陽之介

山口 陽之介 包長子

某

保科 未之助 早世

尹要

山口 安吉

山口 安吉 尹亮 長子

正法

保科 大政 早世

早世

正棟

保科 永治 早世

宣和九年十一月廿六日 保科 永治 早世 正棟 早世

女子二人

保科 永治 早世

早世



清和源姓

水色括後
九代世勳甲

保之 不氏友 言四百俵

其法承位人土岐出羽守光國九代土岐

大膳守更形兼嫡子平清盛守形世五男

新之樂右之權以之兼後醍醐天皇臣部

左輔則兼一男保之長之末則貞如

貞廣

保之不見也

母 勢州信人 貞之弟 弟力某女

某

坂田有休 右と名あり

携るる至居人坂田右と名あり 某姓女子

貞俊

保く七ヶ年

母永井氏物ゆえに

あつたに 少くも八ヶ年直りあり

大猷院攝代

多右衛門孫西屯んは母 以移徳時不貞彦朝
貞俊二年九月廿二日 治承三年八月廿二日 貞俊二年八月廿二日

寛文十一年四月十日 病免小多右衛門 運掌

二年九月廿二日 死 法号長光寺 葬

貞昭 保く八ヶ年

貞置 保く七ヶ年

廣久 保く七ヶ年

女子二人

長岡長三郎 長岡長三郎
長岡長三郎 長岡長三郎
長岡長三郎 長岡長三郎

貞親

保元七年

長生

母少子系のちるま

延喜二年十二月廿三日
大和郡○元禄元年十月廿一日
廿九日陽壽○正徳二年二月五日
甲午十二月廿三日
四月廿七日
乙午六月廿七日

貞長

保元七年

山内

後醍醐天皇の御在位

貞寛

保元七年

宝永六年四月
廿七日
天明元年十二月
元文四年十二月廿七日

延二年十月廿四日死善地なり

貞暢

保く生初

貞暢

保く生初 二初

貞貞親二男

元文四年十一月廿七日保く生初小多活保く生初○同五年

六月保く生初廿七日保く生初○同五年保く生初十二月廿七日保く生初

小多活○安永七年八月廿七日保く生初○同八年十二月

十七年日死善地なり

貞敏

保く生初 二初

保く生初

安永七年八月廿七日保く生初小多活○同九年

十二月廿七日保く生初天明二年八月廿七日保く生初

同九年六月廿七日保く生初

貞純

日本書紀人

保く生初

多事... 河内... 被地... 年... 功...

檢院... 長... 朱... 光... 德... 具... 之... 延... 以... 存... 年...

正... 元... 之... 新... 河... 田... 山... 年... 次... 之... 中... 之... 延... 以... 存... 年...

至... 長... 二... 年... 之... 延... 以... 存... 年... 之... 延... 以... 存... 年...

多... 事... 之... 延... 以... 存... 年...

員... 國... 山... 知... 郎... 赤... 尾... 村... 五... 百... 石... 給... 之... 年...

六... 升... 同... 中... 給... 之... 年... 之... 延... 以... 存... 年...

里... 升... 合... 子... 之... 年... 之... 延... 以... 存... 年...

慶... 長... 二... 年... 九... 月... 十... 日... 所... 朱... 印...

保... 之... 朱... 印...

于... 好... 里... 院... 為... 日... 所... 官... 元... 永... 十... 八... 年... 十... 一... 月... 三... 日...

死... 于... 永... 永... 十... 八... 年... 十... 一... 月... 三... 日...

保... 之... 朱... 印...

貞... 廣...

檢... 院... 以... 之... 年... 三... 年...

大... 猷... 院... 檢... 以... 之... 年... 三... 年...

子... 五... 年... 之... 年... 三... 年...

元形 出信の事 元正〇年三月十八日 卯
死 五十四 葬 地 口 本

貞高 保 子 方 方

家 省 少 年 信 子 好 心 之 信 者 萬 治 二 年 丁 卯
死 五 十 九

貞季 保 子 方 方

子 方 方 之 信 者

元勝 保 子 方 方

母 方 好 女 子 信 子 好 心 之 信 者 萬 治 二 年 丁 卯
出 三 十 九 信 子 方 方

好房 保 子 方 方 有 休

信 人 好 田 左 右 方 方 子

貞俊 保 子 方 方

子 方 方 之 信 者

貞昭 保 子 方 方

三三三三

自置 保之保之

山米山米

廣之 保之保之

保之保之 自置 保之保之 元保六年十二月廿七日

女子 保之保之

自長 保之保之

保之保之 保之保之 元保六年十二月

自息 保之保之

保之保之

女子 保之保之

自息 保之保之

万治三年十二月父在島子親多か二百名小
曾孫の定又今年十月十日大なる家
元是はるの御男子... 万治三年二月廿
子日七月... 万治三年三月朔... 同十年二
月十日... 享保五年七月九日病免
小曾孫の日... 万治三年十月廿七日

貞武 保... 物

享保八年十二月廿六日家督小曾孫○同十
三年九月十三日西九... 院者○延享二年
九月朔日
古酒之... 延享二年七月六日
西九... 延享二年九月...
享保十年甲子日朔日...
古酒... 延享○

信長は信濃郡に於て同平六月三日に没す
即ち此の如く名〇同十二年十一月十五日
の如くあり決地以〇同平十二月十五日
若くは信濃郡の如く名〇信長以〇同十二年
九月十日に死す五十七

如子 即ち信長は死す五十七日あり

貞吉 信長の子あり 七十七

信長は信濃郡に於て死す

知棟 信長の子あり

知棟 信長の子あり

信長の子あり

信長の子あり

寛永十三年十一月の如く信長の子あり
五年一月廿六日の如く信長の子あり
廿四日の如く信長の子あり



源氏

家紋 水色格紋
九折笹 龜甲花菱

保 言千石

清和天皇八代右衛門守光四代右衛門
大膳左衛門康七男右衛門忠尚於忠六男
貞忠四代人誓昌右衛門康八男誓昌及
五代誓昌東面親左衛門康細右衛門友賢
吉子成列苗字細門之稱之康八代

則貞

保 長三保

十三年之文難得一人一已執列其苗字を保つて其後九州下
細紙征伐の時加茂氏後守の子息は百石の属

高藤、正紙経四十年改國之初

持現極長き持出程に依り終に中存知り又

國政大捕討死し柳子津田中宗隆と号す

事及に終西守少と云ふ者二百年に及ぶ

於中國史忠知行子石原下一名山利初發

○大坂陣出依○四書後發○小普信入○

寛永大己年十一行有死年二歳下右

店極寺之發

貞廣

保石月書

持現極二三三三

大坂征極、家形討死、山鹿坂五百石

加坊、法方、史○山田、納戸○山本、村、道、良○

高田、保、七、高、信、行、屋、三、百、石、也、○

承應三年八月晦日死、年四歳、日寺

貞吉

保元元年

在信濃國西書院殿敷○万治二庚年
十月十八日死年九歳日寺

貞季

保元元年

在出雲國二百俵

廣久

保元元年

在信濃國西書院殿敷○元禄二年十月

古七方改易

貞長

保元元年

在信濃國

在信濃國西書院殿敷○延宝元丑年
正月五日死年二歳日寺

貞忠

保元元年

万治二庚年十月廿四日死年九歳
十一月十三日死年六歳日寺

○

源氏

家紋 丸括 根毎

保々

言二百俵

清和天皇の外出保々石見守貞廣七男

貞述

置 保々伝書場

寛文二意年 守り在百俵田中散出彦
昔の口年七り 武百俵の口十成年中例
ゆき山移徒好中細戸の天和元年
ナリ食旨病免の言承天子年守り各

死後長子守之葬

其

保長

元文四年二月十九日辰時○京保
元文五年二月廿一日辰時○京保
死日寺

貞勝

保長

古

享保四年七月廿七日午時
元文四年九月廿八日卯時
甲府初七日○元文四年七月廿七日午時死
甲府初七日○元文四年七月廿七日午時死

貞清

保長

古

元文四年二月二日辰時甲府初七日○
元文四年三月廿九日辰時○
元文四年三月廿九日辰時○
元文四年三月廿九日辰時○

貞勝

玄中村之御成親
保之子女也

改元永保

安享元年九月九日御成親御子の御成
六子年甲子の御成親の御成親の御成親
御成親の御成親の御成親の御成親
御成親の御成親の御成親の御成親

貞次

玄中村之御成親
保之子女也

安享元年九月九日御成親御子の御成

御成親の御成親の御成親の御成親

言武百俵



源姓

家紋 水色括授
九牧龜甲花菱

保々

高八百石

保々有身令自負廣二里

負晴

保々家令 九千石

大敵後御旨自負

江揚屋敷江延々長小村江家系江佳
清守振指江保々氏年十月何様打

方以孫人持持四仁志海飲の事事記卯
 年十月廿四日卯未の旨後（後）の心曆二
 申年十月廿四日卯未の旨後（後）の心曆二
 七月廿四日卯未の旨後（後）の心曆二
 儀の旨後（後）の心曆二
 申年二月廿四日卯未の旨後（後）の心曆二
 〇日申年二月廿四日卯未の旨後（後）の心曆二
 〇日申年二月廿四日卯未の旨後（後）の心曆二
 申年二月廿四日卯未の旨後（後）の心曆二

情帯

保心（保心）

貞享三年梅田出船の旨後（後）の心曆二
 二年十月廿四日卯未の旨後（後）の心曆二
 十月廿四日卯未の旨後（後）の心曆二

貞長

保心（保心）

貞享三年梅田出船の旨後（後）の心曆二
 二年十月廿四日卯未の旨後（後）の心曆二
 十月廿四日卯未の旨後（後）の心曆二

山本清隆の同中ノ在年二月七日申付
○家永九年二月七日宛相方
○同中九年八月信地方
己年九月廿七日申付
寅月廿七日申付

貞後三男
二子作中
保保
保
保

貞房

表

享保二年四月廿七日
青月廿七日

山本清隆の同中ノ在年
同中九年八月廿七日
享保二年四月廿七日
年九月廿七日
同中九年八月廿七日

貞長

海

享保二年四月廿七日
同中九年八月廿七日

同三年二月形多中村の家慶西角
年四月同多中村の以八宮年十月
古下宿光の如永九年二月宮之元
同在九年正月

貞政

玄庫師 氏約之序
永三年

宝曆十三年九月九日少人海了。
石分九月形出目人。如永九年五

月形。如喜の天高之也年十月日

西尾の事他如の日月今

美高の宿内。同三年十月月日宿光の

之の百名 或喜の月

台陸院原

一沖業下色紙一枚 石屋了身度行伝

大徳院原

一沖業下色紙一枚 口人伝

浅場院原

一沖業下色紙一枚 口人伝

文脈院原

一沖業下色紙一枚 口人伝

河原。河死。子信高。幼少。相列。山田。亦。未
為。如。信。在。京。長。吏。氏。綱。公。氏。綱。其。子。為。年
故。姓。改。年。号。山。條。左。馬。長。吏。綱。成。其。子。信。介
其。好。氏。綱。之。身。相。列。甘。繩。城。主。山。條。左。馬。氏
時。子。子。故。其。子。綱。成。相。後。後。甘。繩。之。城。綱。成
長。男。左。馬。長。吏。氏。繁。其。弟。隆。介。其。子。左。馬。長。吏
氏。信。河。原。在。甘。繩。城。為。其。軍。一。長。天。正。十。六。年
七。月。山。田。亦。滅。亡。其。好。氏。信。甘。繩。之。城。亦。在
江。之。西。大。岡。亦。其。子。山。田。官。之。亦。其。子。

河原。河死。子信高。幼少。相列。山田。亦。未
為。如。信。在。京。長。吏。氏。綱。公。氏。綱。其。子。為。年
故。姓。改。年。号。山。條。左。馬。長。吏。綱。成。其。子。信。介
其。好。氏。綱。之。身。相。列。甘。繩。城。主。山。條。左。馬。氏
時。子。子。故。其。子。綱。成。相。後。後。甘。繩。之。城。綱。成
長。男。左。馬。長。吏。氏。繁。其。弟。隆。介。其。子。左。馬。長。吏
氏。信。河。原。在。甘。繩。城。為。其。軍。一。長。天。正。十。六。年
七。月。山。田。亦。滅。亡。其。好。氏。信。甘。繩。之。城。亦。在
江。之。西。大。岡。亦。其。子。山。田。官。之。亦。其。子。

隆慶元年春 山内重成 乃德州岩倉城 乃下
地 三千六百郷 乃下 乃下 乃下 乃下 乃下 乃下
五年 乃下 乃下 乃下 乃下 乃下 乃下
乃下 乃下 乃下 乃下 乃下 乃下

乃下 乃下 乃下 乃下 乃下 乃下
乃下 乃下 乃下 乃下 乃下 乃下
乃下 乃下 乃下 乃下 乃下 乃下
乃下 乃下 乃下 乃下 乃下 乃下
乃下 乃下 乃下 乃下 乃下 乃下
乃下 乃下 乃下 乃下 乃下 乃下
乃下 乃下 乃下 乃下 乃下 乃下
乃下 乃下 乃下 乃下 乃下 乃下
乃下 乃下 乃下 乃下 乃下 乃下
乃下 乃下 乃下 乃下 乃下 乃下

代々象居地内勤員と云ふ名日本無事度下不
快信露氏孫死好保科孫西子久大郎好出
羽子と云ふ書子と也武列。素白と云ふ
繁彦度下と云ふ所法事也。下白古月古
日下名同ハ日病死安房与氏長父繁彦死好
信為幼少沙汰不及安房城、出孤ナリ上信
玉山と云ふ鄂南縣、と云ふ也方と云ふ所住
送三ヶ年同十ヶ年地由三ヶ方所歸政と好
室後杉徳成と云ふ因為心條左京右史氏也

室と好ハ氏長母と云ふハ、口出と云ふ所繁彦子
孤ナリ信と云ふ也名使と云ふハ、口出
召具下と云ふ也也如大悦氏長と云ふ所姉娘
云々兩兄と云ふ也、孫列と云ふ所駿府後徳成
衣服孫子と云ふ也、姉娘と云ふ所書と云ふ也
中と云ふ所好と云ふ也、氏長と云ふ所月と云ふ所信と云ふ所
年と云ふ所信と云ふ所、不と云ふ所信と云ふ所、好と云ふ所
婦と云ふ所信と云ふ所、未と云ふ所信と云ふ所、信と云ふ所、好と云ふ所
半と云ふ所信と云ふ所、信と云ふ所、好と云ふ所、好と云ふ所、好と云ふ所

日光山 ○同十四年 於西光山中之民老加
手敷 ○同十六年 五月廿四日 從以同十
布衣 ○同十六年 改東地中 移金中 田川
崎 富平 官上 永福 寺 武州 真福村 ○同
十七年 休年 日光山 ○同年 於東川 山
新燒 山 柔 院 過 ○同十六年 四月 十日
田也 ○ 成 即 到 區 師 之 年 以 休 之 向
久 如 不 改 休 年 自 廿 一 人 亦 在 同 九 月 廿 二
○ 同 廿 一 年 為 今 後 之 故 云 日 三 日 之 唯 一

帝 之 治 之 上 供 之 先 去 自 日 達 於 大 也
同 之 日 廿 三 日 於 武 州 乃 河 山 柿 木 山 松 也
持 長 於 中 雖 為 者 者 別 象 似 似 從 年 人
難 卒 二 百 人 在 是 於 此 前 抑 於 後 初
有 聖 旨 日 為 在 此 之 處 臣 臣 以 年 月 於
山 亦 也 瑞 於 月 長 在 之 中 一 同 官 物 師
二 之 也 而 刻 石 氏 長 於 此 持 瑞 之 通 也
帝 帝 首 危 命 之 條 乃 所 成 系 從 同 十 二 月
十 六 日 以 終 也 以 之 以 西 也 附 ○ 正 德 三 年

甲月十三日於山に居る者下包交る格白格
足博大博中氏共一人別高仰休事し
同年系上高雄體物、然と于好國の
士股用信、お任之然と、同日年百十三
四折百以同年九月十日城制本圖了然
る系、在年十月十日、秋、同年十月十日
於手子大違物、之免、時付、然と、氏共別高
仰休、出立、白、山、好、好、水、孝、子、白、備、
早、安、元、年、一、二、月、十、三、日、於、山、に、居、る、者、下、包、交、る、格、白、格、
○四月十日

日光山法華寺

蒙有院抽拜駕四給一年、就日光山法華寺也
○同日、五月、拜、然、白、孝、子、之、所、長、昭、同、月、日
ある、形、補、相、以、山、を、お、り、て、法、華、寺、に、依、勤、仕、
山、誠、と、ま、る、り、○同日、十月、十日、法、華、寺、に、
系、山、を、過、り、て、法、華、寺、に、○同日、年、十月、十日、
白、白、唯、四月、見、江、日、二、山、誠、誠、と、ま、る、り、
黒川、に、系、山、を、過、り、て、法、華、寺、に、
返、出、す、入、仰、休、後、不、重、氏、共、一、人、也

建中元年十月十日
同年十月十日

家右院様
廿七日

漸向同年十月廿七日
公之生更
行者十月廿七日
廿百廿九日十月十日
頗之

向差紙は...

十月十七日
見多
明
有
年
以

同平云月六日越日元平系云同廿七
物光院山寺下之山所下之有遷之儀
多洞塔寺年初之同月廿九日西井僧
多之山 山寺 法云其山寺傳云其寺之改
○同平云上京内兼山寺法寺之新
之儀也○同三年平系云山寺山寺法寺
日行月平寺寺寺寺功○同曆元年寺城
割習之儀云其山寺○同平云十日大月行
○二年平系云其山寺所傳云其寺

之儀月○同七月院府之儀後儀系云
勢寺核系也○同三年平系云其寺寺寺
下系山寺系割之儀月○同四年四月
儀割系云其山寺同月也日切寺丹山系云
月朔日山寺系下儀云其山寺系云其山寺
描堂村大山村系云其山寺系云其山寺
系云其山寺○萬法二年二月天地之自之儀
同平云其山寺同平云其山寺甲州之儀
川後之儀○寬文三年山寺系云其山寺

此物為○同十二年七月六日陰辰家者同
八月十日家者同^元年九月十八日公事場
所月同十二月黃金四百五十兩○同十三年
正月公事場四月月止三月以元○同十
六年正月廿六日不度多行○同年十二月
朔日川前以多法為事四日金也投時解
明成抄紙○家永三年八月廿八日中程記
○同十二年七月布帛○同十二年貝太級人
貝之受取本該所取打修之法之節為事

之心事傳意之後取止向存其在後之者
新取之法是之法者公事場人之請平復之
○同六年甲日○同於西也上取可事
○同月法更也○同年六月十三
日金五百兩洋信○同年九月初六日取
○同四月元也○同法三年三月日
右取系府甲日○同月元同九月廿八日
○同取物也○同九年三月
七月大月日○同於下海客法不取割

清室天子之執、修其政、
之節、比伊之古、
以自、
足

有任院極、
系、
年二月廿日、

月朔、
年七月廿日、

勝、
勝

松、
松

西子二人、
氏、

由、

氏重

山内新左衛門 三ノノリ

寛永三年十一月廿八日初ハ同見〇字係
十二年十一月廿九日家督家令〇同十三年十一月
十四日同月付〇同十四年十月廿。

唯是孫以入妻之命迄迄之方同同十
十四日同家令同〇同十七年八月廿

此是朝以多印之字之書之五枚同
九月同家令同見〇同十九年十一月同

初の書以〇元文四年八月十日大坂の定
書川原の同十七日七日同唯首見同
物同十七日同府同十日同見〇同六年六
月六日同家令同〇延享元年十二月廿
初見〇寛延二年九月十日死

同寺
信
同寺
信
〇中絶者中山動物信長

氏應

山内新左衛門 三ノノリ 山外

寅

元文四年四月

三月廿六日

元文四年十一月七日卯時
元文四年四月三日
元文四年四月三日
元文四年四月三日

女子

氏名

元文四年

元文四年

氏名

元文四年

元文四年六月

氏名

元文四年

元文四年

元文四年

元文四年

元文四年

元文四年

元文四年

元文四年

元文四年四月

元文四年四月



寅

元文四年十一月七日卯時

元文四年十一月七日卯時

元文四年十一月七日卯時

元文四年十一月七日卯時

元文四年十一月七日卯時

元文四年十一月七日卯時

氏名

女子

氏名

元文四年十一月七日卯時

元文四年十一月七日卯時

元文四年六月

氏名

元文四年六月

元文四年四月

元文四年四月

元文四年四月

元文四年四月

元文四年四月

元文四年四月

元文四年四月

元文四年四月

年八月十日... 〇丁卯五年七月
 十二日 孫府... 城代... 〇丁卯五年七月
 廿日... 〇丁卯五年七月... 〇丁卯五年七月
 女子... 〇丁卯五年七月... 〇丁卯五年七月

氏乾 小原新... 〇丁卯五年七月

卯卯九年... 〇丁卯五年七月
 三年七月... 〇丁卯五年七月
 氏乾... 〇丁卯五年七月

興記 〇丁卯五年七月

女子人

〇丁卯五年七月... 〇丁卯五年七月

〇丁卯五年七月

〇丁卯五年七月

〇丁卯五年七月

〇丁卯五年七月

手紙の宛先が不明なところから
江戸府の某所へ宛てられた
書状の口封を破るに当たって
ある日平元とあるところから
事なるが自記の事である
等々とあるところから

江戸府 御諱は判

小幡

平姓 九内三ノ鱗
比條 子首石

比條女房と氏長は男

元氏 比條掃部と氏道新長

奉書

百治三年七月に新紙出仕組の寛
文元年十二月十日の切符の旨依り
九月年甲子三月十日の書状に
九年皆

勅令全集の巻八 中平

常憲後條 貞元二年和成元年二月

八月二十九日の勅令は、令後條の貞元

元年二月十日、貞元元年八月十日、

二月十日、貞元元年八月十日、

二月十日、貞元元年八月十日、

二月十日、貞元元年八月十日、

二月十日、貞元元年八月十日、

二月十日、貞元元年八月十日、

後金三首石^{地方} 貞元二年八月
十日、^後貞元二年八月十日、
二月十日、貞元二年八月十日、
二月十日、貞元二年八月十日、

氏如

貞元二年七月、
貞元二年七月、
貞元二年七月、

貞元二年七月、
貞元二年七月、
貞元二年七月、

桐原公房の同年四月二十一日
足利義満の同年六月二十一日
足利義満の同年七月二十一日
足利義満の同年八月二十一日
足利義満の同年九月二十一日
足利義満の同年十月二十一日
足利義満の同年十一月二十一日
足利義満の同年十二月二十一日

足利義満の同年四月二十一日
足利義満の同年六月二十一日
足利義満の同年七月二十一日
足利義満の同年八月二十一日
足利義満の同年九月二十一日
足利義満の同年十月二十一日
足利義満の同年十一月二十一日
足利義満の同年十二月二十一日

在江戶版大之保中好之版之五人合氏如
尋字以文通二十之道

一書の集抄一冊

場取
北條孝房の著述

一書柄百十條片一冊

福徳修の著述

在二冊以如著述

氏著

文政九年保願二冊

少筆万沙師

宗女 新及書

寛永二年十一月廿七日御書

日六廿年一月廿七日御書

山切本之首巻の同年九月廿七日御書
御書宛の書西元今令と校の書保十一
年十一月廿七日御書
日光出巻の同年十二月廿七日御書
湯和城門後六月廿八日御書
庚午年一月廿七日御書
六月廿七日御書
其書宛の書保元元年六月
廿七日御書

義氏

少弐之臣 龜元

寛保元年九月廿三日、存留（一）、延享
 二年正月、福屋（二）、初吉（三）
 同年九月、西尾忠信、同、卯
 年、相、（四）、（五）
 所、同、（六）、（七）
 及、有、死、（八）、（九）

氏紀

兼左也 治部

寛保三年八月、（一）
 宝曆四年三月、（二）
 同、五年、（三）
 尾、（四）
 位、（五）
 同、（六）
 同、（七）
 同、（八）
 同、（九）

〇以七萬五千七百七十石
 〇以八萬五千七百七十石
 〇以九萬五千七百七十石
 〇以十萬五千七百七十石
 〇以十一萬五千七百七十石
 〇以十二萬五千七百七十石
 〇以十三萬五千七百七十石
 〇以十四萬五千七百七十石
 〇以十五萬五千七百七十石
 〇以十六萬五千七百七十石
 〇以十七萬五千七百七十石
 〇以十八萬五千七百七十石
 〇以十九萬五千七百七十石
 〇以二十萬五千七百七十石

氏統

〇以中興元年七月廿三日
 〇以永治元年七月廿三日
 〇以長祿元年七月廿三日
 〇以元祿元年七月廿三日
 〇以享和元年七月廿三日
 〇以文政元年七月廿三日
 〇以天保元年七月廿三日
 〇以弘化元年七月廿三日
 〇以嘉永元年七月廿三日
 〇以安永元年七月廿三日
 〇以享和元年七月廿三日

〇以中興元年七月廿三日
 〇以永治元年七月廿三日
 〇以長祿元年七月廿三日
 〇以元祿元年七月廿三日
 〇以享和元年七月廿三日
 〇以文政元年七月廿三日
 〇以天保元年七月廿三日
 〇以弘化元年七月廿三日
 〇以嘉永元年七月廿三日
 〇以安永元年七月廿三日
 〇以享和元年七月廿三日

氏高

〇以中興元年七月廿三日
 〇以永治元年七月廿三日
 〇以長祿元年七月廿三日
 〇以元祿元年七月廿三日
 〇以享和元年七月廿三日
 〇以文政元年七月廿三日
 〇以天保元年七月廿三日
 〇以弘化元年七月廿三日
 〇以嘉永元年七月廿三日
 〇以安永元年七月廿三日
 〇以享和元年七月廿三日

〇以中興元年七月廿三日
 〇以永治元年七月廿三日
 〇以長祿元年七月廿三日
 〇以元祿元年七月廿三日
 〇以享和元年七月廿三日
 〇以文政元年七月廿三日
 〇以天保元年七月廿三日
 〇以弘化元年七月廿三日
 〇以嘉永元年七月廿三日
 〇以安永元年七月廿三日
 〇以享和元年七月廿三日

了之次之竟及八在年六月分方之
花物多之末方之其年分列在^軍中武
士^用禮要法海秋の同年六月分の軍事
お此^用版^用事^用人^用行^用世^用之^用他^用以^用五^用願^用
想^用河^用古^用の^用因^用九^用年^用只^用因^用七^用の^用書^用院^用
也

多系姓

心條

多系姓係多冬多郷好流心條大徳助
言後婚男^子也^也至^也任^也人^也心^也條^也也^也存^也了^也英
福^也條^也一^也代^也月^也也^也院^也、^也以^也出^也也^也好^也流^也氏^也心^也條^也也^也
多^也系^也了^也題^也也^也了^也

高色

心條高系 高色了 平左了

美浪人部心字了了了系田了了力

字係六年六月廿五了了了了了了了了了了了

同十月廿四日多紀勅定○同十五年二月
十四日西勅定○元文元年五月十日金限
吹重兵衛跡目○同十四日廿四日西月
勅定○同二年六月廿六日京
部跡吹重兵衛跡目○同三
年二月廿五日瑞府西月見○同月十日
二枚跡目○同五年小笠原○寛延三年十
一月九日死
如子 三子

三子 如子 跡目 西月見

元文三年五月廿四日西勅定○寛保三年
十月廿三日勅定小笠原西月見跡目
賢治休○寛保四年甲子日死

某 如子

三子

菅政

山陰尾助

實

字人

と多孫ハクと元二方

寛延三年十一月廿七日

和五年十一月廿七日

八月三日

女子

字人

と多孫ハクと元二方

菅保

山陰尾助

と多孫ハクと元二方

實

と多孫ハクと元二方

了明四年十一月廿七日

女子二人

菅保妻

と多孫ハクと元二方

大奥マシム

北條家系の系図

氏英 河本左衛門

元禄二年二月十九日 根田少左衛門 半之丞 百俵之
持持口又年十月廿五日 水原戸口 五年九月廿二日 病死
高永元年二月廿五日 北条千代 市首 隆日寺

氏盛 市進

高永元年 守之丞 隆日寺 西德二年八月廿七日 死 千
二系日寺

氏胤

高永元年 進士 隆日寺
助次郎 仙意

西德二年十二月廿七日 北条千代 守之丞 西元年 守之丞
致仕 安永元年九月廿七日 死 千代 守之丞

平野

家紋

軍配圖

心條

百俵之杖

上杉藩 信家 老心條 丹好 守之丞 隆日寺

高永元年 隆日寺

丞氏

高永元年 隆日寺

高永元年 隆日寺

寛延元年八月十日 守之丞 隆日寺 〇 宝曆

二年十月五日 守之丞 隆日寺 〇 同七年十月
廿九日 守之丞 隆日寺 〇 同六年 守之丞 隆日寺

〇同七年九月十九日評定不備御由〇丁卯七年
 二月十日評定御由〇寛政三年二月廿日
 御由〇七年八月廿九日御由

氏如 小徳源原太 如子 政太郎

丁卯七年四月廿日御由 四月廿日

如子三人

中書令
 伏至之右左乃為書馬

〇同七年九月十九日評定不備御由
 〇丁卯七年二月十日評定御由
 〇七年八月廿九日御由

後原姓

家紋 九三三飛甲 内花菱

保木

言三百廿年儀

先祖不詳

公富

保木保太郎

台徳院様 被 長出言百廿拾儀 御勅定

〇安永二年九月十日死儀 宗寺所
 徳福寺葬

公利

保木保左衛門

初任助

隱居 嶺雲

安永二世年九月十日家督出勘定
○延宝六己年六月四日院番○元禄六
酉年六月八日死七十五歳寺日上

公遠

保木弥左衛門

延宝六己年六月三日家督出勘定○
元禄二己年閏正月七日出勘定組次
○同六申年十二月廿一日出勘定百俵
○同十一寅年十二月廿一日全根出勘
御用為出勘受出勘増百俵於合三首
力指儀○享保四亥年四月七日病死○
日十三申年四月晦日死七十九歳寺日上

慎初

保永九太郎

宝永六丑年四月六日小勘定○父
勘定但此相勤二月日月廿二日大出番
○享保九辰年四月十日小代友○同日十三
申年八月十九日家持○元文三年
二月六日死○十九歳寺日上

尚德

保永五郎

元文三年七月二日家持○寛保元自
年八月九日大出番○同二成年十月方
於大坂表死二年一歳口茶少梅寺町
傳長寺葬

相原

保永任左衛門

少子

实地居市郎在茶門六男

寛保二戌年十一月廿六日甚子家持○
延享二丑年八月十日大坂○
明和元
申年九月廿二日大坂○
是奉行○
同八年六月十日大坂表死○
葬
寺同上

宗原

保永保三助

明和八年八月廿日家持○
安永八

申年七月廿日死○
一歳淺草寺町
松福寺葬

宗原房義岑二男

保永保左衛門 初名茂

萬世

安永八申年十月八日甚子家持○
日六
自年二月廿日大坂○
同九子年九月
廿八日大坂表死○
一歳小橋寺
町傳長寺葬

一 七年戊辰... 八月... 九月... 十月... 十一月... 十二月...
 一 八月... 九月... 十月... 十一月... 十二月...
 一 九月... 十月... 十一月... 十二月...
 一 十月... 十一月... 十二月...
 一 十一月... 十二月...
 一 十二月...

一 七月... 八月... 九月... 十月... 十一月... 十二月...
 一 八月... 九月... 十月... 十一月... 十二月...
 一 九月... 十月... 十一月... 十二月...
 一 十月... 十一月... 十二月...
 一 十一月... 十二月...
 一 十二月...



[Faint, illegible handwritten text on aged paper, possibly bleed-through from the reverse side.]

